

聖書日課 『からし種』 2026.2.22-3.1

<p>2月22日 (日)  レビ記 25章</p>	<p>「もし同胞が貧しく、自分で生計を立てることができないときは、寄留者ないし滞在者を助けるようにその人を助け、共に生活できるようにしなさい」(35節)。25章は「愛神愛隣」の戒めの具体。信仰は「わたしの救い」にとどまらない。隣人と神の恵みを分かち「共に生活していく」ためのもの。今朝の主日礼拝が、新しい一週間に隣人と共に生きる力となるように。</p>
<p>23日 (月)  レビ記 26章</p>	<p>「わたしはあなたたちのただ中にわたしの住まいを置き、…巡り歩き、あなたたちの神となり、あなたたちはわたしの民となる」(12節)。パウロはこの御言葉をうけて「わたしたちは生ける神殿である」とコリント教会に語りかけた(Ⅱコリ6:16)。荒れ野のような世界だけれど、「私たちのただ中に住む！」と語る方に励まされて、今日、神を賛美して過ごせますように。</p>
<p>24日 (火)  レビ記 27章</p>	<p>「土地から取れる収穫量の十分の一は、穀物であれ、果実であれ、主のものである。それは聖なるもので主に属す」(30節)。まず神の国と神の義を求め、神のものを神のものとしていく。わたしが手にしている多くの恵みを「主のもの」として感謝してお返ししていく。この世界に「主のもの」が増えていくことで、私たちの間の争いが少しでも減るとよいのだけれど。</p>
<p>25日 (水)  民数記 1章</p>	<p>「イスラエルの人々の共同体全体の人口調査をしなさい。氏族ごとに、家系に従って、男子全員を一人一人点呼し、戸籍登録をしなさい」(2節)。どの氏族に属し、誰の血を引いているのが、その人の存在意義として大切にされた旧約の時代。「あなたがたはキリストのもの、約束の相続人」(ガラテヤ3:29)と呼ばれる、新約の時代を生きる恵みを覚えたい。</p>

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2026.2.22-3.1

<p>26日 (木)</p> <p>民数記 2章</p>	<p>「イスラエルの人々は、それぞれ家系の印を描いた旗を掲げて…臨在の幕屋の周りに…宿営する」(2節)。臨在の幕屋の周り、東西南北に三部族ずつが配置されて宿営した。彼らの中心に臨在の幕屋があり、礼拝が彼らを「イスラエル」(創世記 32:29)として立てたこと、礼拝を忘れたならばたちまち「イスラエル」として存在意義を失うものとなることを覚えたい。</p>
<p>27日 (金)</p> <p>民数記 3章</p>	<p>「あなたはレビ人をイスラエルの人々のすべての長子の代わりに…わたしのものとしなさい。わたしは主である」(41節)。レビ人は昼も夜も、礼拝のともし火(祈り)をささげる祭司の務めを担った。今日、私たち教会は「祭司、神のものとされた民」として、暗闇の中から驚くべき光の中に招き入れてくださった方を広く伝える役割をいただいている(1ペトロ 2:9)。</p>
<p>28日 (土)</p> <p>民数記 4章</p>	<p>「モーセ、アロンおよびイスラエルの指導者たちが氏族ごとに、家系に従って登録したレビ人は…」(46節)。レビ人は、三つの氏族ごとに臨在の幕屋での作業内容が細々と決められたが、それは「死を招くことがないため」(20節)だった。神の前に立つ礼拝は「死の緊張」を伴うもの。主イエスが十字架に向かう愛は、この緊張から生まれていることを覚えたい。</p>
<p>3月1日 (日)</p> <p>民数記 5章</p>	<p>「わたしがそのただ中に住んでいる宿営を汚してはならない」(3節)。イスラエルの人々の中の汚れたものをことごとく宿営の外に出せと、主がモーセに仰せになった言葉。宿営は神が住んでいる場所だからだと言う。仕方なく重い皮膚病にかかってしまった者たちへの差別のように感じる。しかし、主イエスは彼らにも触れられて癒やされたことを覚えたい。</p>